

令和4年度第3回宇都宮市民大学運営協議会 会議録

1 開催日時 令和4年11月24日(木) 14時から

2 開催場所 教育委員室

3 出席委員

島田 繁雄	会長	丸山 純一	副会長	加藤 丈雄	委員
野中 正知	委員	馬場 知久	委員	細川 みち子	委員
渡邊 瑛季	委員				

(以上7名)

4 欠席委員

赤羽 幸雄	委員	阿部 ゆり	委員	大谷 佳久	委員
-------	----	-------	----	-------	----

(以上3名)

5 出席職員

生涯学習課長	鈴木 康子
生涯学習課長補佐	高桑 昭祥
家庭教育・地域人材グループ係長	藤田 直樹
家庭教育・地域人材グループ総括	久保 孝弘
家庭教育・地域人材グループ社会教育主事	加藤 裕史
家庭教育・地域人材グループ主任主事	川田 友理恵
家庭教育・地域人材グループ主事	篠崎 さくら
家庭教育・地域人材グループ主事	児矢野 はるひ
家庭教育・地域人材グループ主事	田中 大翔

6 公開・非公開の別 公開

7 傍聴者の数 0人

8 議事

- ・ 令和4年度宇都宮市民大学後期専門講座の実施状況について
- ・ 令和4年度宇都宮市民大学公開講座について
- ・ 令和5年度宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について

## 9 議事の経過

### (1) 令和4年度宇都宮市民大学後期専門講座の実施状況について

野中委員	定員に満たない応募者数で、受講者数が減っていることを補足で説明してほしい。
事務局	受講決定後にキャンセルがあるので、受講者数が減っている。
野中委員	NO. 6の「楽しい科学」の応募者が少ない要因を分析しているのか。
事務局	楽しい科学の講座は、例年受講者が20～30名程度なので、この程度の人数で推移している。しかし、今後も実施する場合は定員を増やせるよう、周知などに力を入れてくことも検討していきたい。
島田会長	NO. 1の「名城に名将有り」の講座は応募者数が非常に多いが、もう少し受講決定者数を増やすことは考えなかったのか。
事務局	人材かがやきセンター研修室で、間隔を取って受講できる人数が最大60名で考えていたことや、募集定員が50人であったことから、60人を当選とし、最終的には57人の受講が決定した。今後新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、定員数を以前の水準に戻すことも検討していきたい。

### (2) 令和4年度宇都宮市民大学公開講座について

### (3) 令和5年度宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座の決定について

島田会長	講師について、第1候補から第2候補に変更となった経緯を説明してほしい。
事務局	8月の時点では、第1希望であるティモンディ高岸氏で実施に向けて交渉を進めていたが、事務局を通して依頼したところ、講演会形式での実施は難しいとお断りされたため、第2候補の吉川真氏で実施に向けて準備を進めた。
島田会長	事務局から事前に事情を聞いていたが、予算などの観点からもティモンディ高岸氏での公開講座の実施は難しいと説明を受けていた。余談になってしまうが、小山市で一日署長を務めた時は200万円を要したと聞いた。
馬場委員	ライトキューブ宇都宮の中ホールは500名収容できるのか。
事務局	中ホールでは702名収容することができる。
馬場委員	702名の収容人数でも、感染症拡大防止の観点から、実際には半分程度になってしまうだろうから、350名も収容することができないのではないかと。第8波が来たときの対応はどうするのか。
事務局	緊急事態宣言が発令された場合は、参集型は中止し、オンライン型で開催する。行動制限等が何もなかった場合は、参集型とオンライン型のハイブリッド型で実施する予定である。
馬場委員	栃木市では、吉川氏の講座を無料で何回もやっていると聞いているが、宇都宮市では1,000円を徴収して開催するのか。
事務局	講師謝金と会場費を賄うため、受講料は徴収する。ただし、19歳以下は無料で実施する。

馬場委員 はやぶさ2も失敗しているから、今の話題から少し遠いのではないか。公開講座として実施するのであれば最新の情報・内容でやるべきではないか。

事務局 帰ってきた後にサンプリングを調べたことで新たな発見もあったことから、講師と打合せを通して講座内容を決定していきたい。

渡邊委員 定員について、参集型が500名ということか。オンライン型は最大人数を設けているのか。

事務局 オンラインの最大定員は1,000名である。緊急事態宣言が発動され対面型での実施が困難になった場合は、1,000名を超えない範囲で実施する予定である。

島田会長 続いてVスタッフ企画講座の決定について、選考委員会の委員長でもある丸山委員から補足を願いたい。

丸山委員 今回は新しい企画者・グループがおり、斬新な発想を感じた。自然科学系がずっと弱かったが、生活に根差したものや防災の観点から気象や地震などのもの、まちづくりの問題意識など、多様性を感じる講座が出ていて、良い方向に向かっていて、企画のプレゼンについて、若い世代は学校で調べ学習をやっていたので、アウトプットの発表が上手な印象を受けた。企画者はプレゼン方法にも力を入れるべきだと感じた。

島田会長 2～3分程度資料に目を通していただき、質問等あればお聞かせ願いたい。

馬場委員 企画者は講座の点数などの詳細を知ることができるのか。

事務局 近日中にグループの代表者に結果通知を送付する予定であり、その通知で知ることができる。

馬場委員 宇都宮学コースが1講座しか選考されていないのはなぜか。力を入れて実施する点ではないのか。

事務局 3コースある中で、宇都宮学は力を入れていくべきだが、市民大学のルール上、1つのコースに力を入れて行う予定はない。後ほど順位の案内を通知するが、選考された講座は得点の高いものが優先されている。しかし、全てのコースにおいて、最低1講座の選考が必要であり、選考委員会でも議題に上がったが、コースのバランス調整については、今回の選考では現代の課題に着目した講座も多く、着目点を身近な話題にコミットした講座にすることとなり、ばらつきがでるような選考になった。

馬場委員 先ほど「楽しい科学」の受講者数について別の委員から質問があったが、受講者数が少ないのは市民からのニーズがあまりないからではないか。講座を実施するにあたってはお金を出してでも来たいと思える講座にしてほしい。

島田会長 馬場委員の意見は次回実施する際に参考にしてほしい。他に質問等はあるか。

加藤委員 昨年までは選考委員を務めていたが、年齢層も多様でどの講座がふさわしいか、市民からニーズがあるのかなど選ぶ側も選考するのが難しいと感じていた。

渡邊委員 馬場委員からも指摘あったとおり、宇都宮学が1つしかないのはなぜか疑問である。規則に沿って選考した結果だと思うが、実際に今年度も宇都宮学コースの講座の申込者数が定員越えしている現状であるから、2枠ほど選考してもよかったのではないかと感じた。

馬場委員 市民大学が講座を受けるだけの「やりっぱなし」だともったいないと感じる。図書館が電子書籍も借りることができるようになったことと同様に、講座もデータベースで残して、いつでも昔の講座を見られるようにしてほしい。時代のニーズに合った形で市民大学を実施してほしい。

渡邊委員 公開講座のオンライン型で新たに実施するのはとても良い試みだと感じた。会場に来られない方や施設に入っている方も受講できる環境が整備できると思う。通常の専門講座でもオンラインを積極的に検討いただきたい。

細川委員 オンラインでの受講方法を、市民大学のパンフレットなどで説明してほしい。市民大学の受講者層だと、スマートフォン等の電子機器を操作するのに慣れていない受講者も多いと感じる。

島田会長 デジタル化が当たり前になっているが、スマートフォンなどは使いこなすのに時間がかかるので、そういった方々への対応方法も検討してほしい。

馬場委員や渡邊委員からあった意見について補足する。次年度の宇都宮学コースが1つだけというのは現時点で確定ではない。事務局枠・大学連携講座の計3講座で宇都宮学コースを賄うこともできるため、今後増える場合があることも念頭に置いていただきたい。

この件について、承認いただけるか。

(一同) (異議の声なし)

島田会長 以上で、本日の議題は、全て終了とする。